

合わせて100年 節目の年に

ふたつのロータリークラブ 共に貢献活動を

立川ロータリークラブ63期

立川こぶしロータリークラブ37期

温故知新の1年にしたい

——そもそもロータリークラブ（以後 RC）とは？

中山 職業を通じて奉仕をする団体です。広く世界的にも、狭く地元地域にも、いろいろな部分で奉仕をしています。大きなことでいえば、世界中からポリオを根絶しようと、世界ポリオ根絶推進活動の立ち上げからパートナーとして共に取り組んできています。一方で地域的な活動としては、目立たないところで一生懸命なさっ



中山賢一氏

国際ロータリー第2750地区 東京立川ロータリークラブ2022～2023年度会長。株式会社ライズデザイン一級建築士事務所 代表取締役。1961年5月9日生まれ。3歳から立川住民。10年間設計事務所に勤め、30歳で独立。立川青年会議所第36代理事長、立川青年会議所OB会会長を歴任。趣味は「下手だけれどゴルフ、旅行も好き。フランチャイズ店舗の設計を請け負っているので、全国へ出張している。多忙な中にも、ご奉公したいと語る。

ている優良職業人・社会奉仕功労者などの表彰をしたりしています。メンバーが自ら清掃したりということは、あまりやりません。

大野 ロータリーの基本は「I serve（アイ サーブ）」なんです。個人で活動する。対して「We serve（ウィ サーブ）」を掲げているのがライオンズさんだと思います。しかし近年はロータリーもクラブ単位で行う、特に地域に対しての貢献事業を増やしています。立川こぶしRCでも根川緑道にベンチを寄贈したり、立川図書館に電子書籍を寄贈するなど。地域に向けての活動を増やしています。

——RCと言えば、目立たないけれど、海外留学させてくれる、学生にとってはありがたい存在だという認識でした。

大野 はい。日本から海外へ留学のサポートの他に、外国人留学生の受け入れも積極的に行っています。

——立川RCと立川こぶしRC、その新会長がおふたり揃ってということは、今期は何か変わるのでしょうか。

中山 立川RCが63期、立川こぶしRCが37期。合わせて100になります。お互いに会長になることが決まった時点から、打ち合わせをしてきました。というのも、立川RCがコロナ禍で創立60周年の記念事業ができなかったんです。

大野 こぶしは35周年ができませんでした。

中山 相当準備を重ねて本番の直前まで行ったのですが、やはり断念せざるを得なかった。こぶしさんもできあがっていたのに断念したんですよ。お互いに断念するという経緯を話していくうちに、私が63代会長、大野さんが37代会長、その和が100になるので、一緒に続けてきて100年という位置づけを作っちゃおうと。

大野 より強く協力していきましょう、ということです。合同事業は今までもありますが、1つはGREEN SPRINGSのステージガーデンで、クリスマスチャリティーコンサートを共催します。

毎年RISURUホールでやっていたコンサートの場所をステージガーデンに移しての開催です。もう1つは共同でアプリを開発する。立川RCはパレスホテル、こぶしRCはホテルエミシアで例会を開いていますが、食事が少し余ってしまうのが現状なので、アプリで出欠席と食事の管理をしてフードロス削減をしていきます。

中山 立川RCは、新しいことをしようとするものすごい抵抗にあうのが常なんです。ある意味、厳格なんです。年配の方が矍鑠とされていますからね。でも、私は現状よりもっと良くなるなら変えていきたいと思うわけです。1つはデジタル化。広報委員会を広報デジタル委員会にして、出席アプリを使います。メンバーは123名ですが、現状は全員にFAXです。今時、FAXはなかなか無い。アプリに賛同することで、ペーパーレスに繋がり、フードロスも減少、クラブの事務局の労働時間短縮にもなり、通信費も減ります。

——とても厳しい組織のようですが、入会は誰でもできるのですか。

中山 誰でも入れる組織ではありません。入りたいなと思って審査がありまして、結構落とされるんです。会員の1名でも反対があれば入れないです。

大野 こぶしの場合は、もう少しフレンドリーです（笑）。立川RCは行っていただくのですが、かなりピリッとした格式ある例会をされています。こぶしも平均値よりは厳格ですが、やはり立川RCに比べるとアットホームです。

中山 同じ街にいますからね、お互いをよく知っている。だから一緒にさらに仲良くやっていく、これ、良いことだと思うんですよ。

——大野さんはお若いですが、おいくつですか。

大野 49歳です。ロータリーの会長としては、若すぎると言われることもあります。クラブの中でも8割以上が先輩で、こぶしRCの会長としては最年少です。入会して私は10年経ちますが、その中で先輩方からの立川への思いというものが僕の中に入ってきて、ロータリーをきっかけに立川ダイス（3人制バスケットボール）があったり、商工会議所でのプロスポーツや

キックボード推進事業があったり、GALERA TACHIKAWAもそうですね。ロータリーがハブになって友達もたくさんできました。ロータリーには友情を育むという1大コンセプトがありますので、家族のように付き合っていく、信頼関係ができあがります。そこにいろいろなきっかけが生まれる。ロータリーはそのゼロ地点だと思っていますね。

——その中でクラブ自体を変えようとしていらっしゃる。

大野 もともとは陰で徳を積むというような活動だったんですが、それだけでは多くの方に「ロータリーって何やってるの?」と言われてしまう。ですから 家族や従業員のためにも、個人として徳を積む精神も大切にしながら、団体として、ロータリーとして地域に貢献活動をしていくようになっています。

——立川にあるRCだけが変わってきたのですか？

大野 世界的にも国際ロータリー自体が公共イメージを大切にしようという動きになっています。最近で言えば、ウクライナにもロータリークラブはあり、私達もすぐに募金を募って、きちんとしたルートで届くようにしました。

中山 ちゃんとしたルートでないと、武器に使われてしまうかもしれないじゃないですか。それは本意ではないので。

——なるほど。

中山 3年前の創立60周年の時、長井工務店の長井さんが会長で、私は幹事でしたが、10年後のクラブの指針、「SDG s 持続可能な17の項目を2030年までに達成する」を出しました。それから今年は3年目で、より具体的に進めていく段階です。社会奉仕委員会の枠の中で環境保全委員会がありましたが、それを分離して環境委員会として独立させて、独自に動いて環境改善に特化したことをやっていこうとしています。良くなるのであればもっと変化を求めています。参りたいと考えています。

大野 こぶしRCでは立川図書館へ電子書籍の寄贈を考えています。コロナ禍で電子書籍の需要が高まりました。今回も子ども向けに青空文庫を500冊、大人向けにデジタル伊能図を

寄贈し、日本の地図ができてきた軌跡を楽しんでいただこうと思っています。電子書籍は文字の大きさや画面の明るさも自由になり、指1本でページを捲れたり、読み上げ機能もあるなど様々なユーザーに対応していて、ユーザーフレンドリーなんですよ！

——市民から見て、これはロータリーの仕事だとわかることはあるのですか。

大野 根川緑道のベンチ。今年で20基以上になると思います。

——それって、ロータリーだとわかるのですか。
大野 小さくロータリーマークがついています。でもその程度です。ですから、表に出てきたのは最近なのです。

——陰徳でしたからね。

中山 そう、そうなんです。でも私たちの年度から、今回の取材もそうですしSNSもそうですけれど、ロータリーって良いことやっているんだよということを、きちっと市民の皆さんに伝えていこうとしているんです。ただのお金持ちの集まりだと思っているかも知れないでしょ。——思ってます、思ってます。

中山 良いことをすごくやっているんです。街に対してもそうだし、世界に対しても、他の国に対しても。それを言わない、発信しないから。でも私たちの代は発信しようと思っています。もっといろいろな媒体を使って、こんな良いことをやっているんですよ。委員会の皆さんがやっていることを、電子媒体などを使って知らしめていきたいと思っています。

——前述されましたが、厳格な組織でいらして、従来のあり方を守りたい方からのお叱りなどはないのでしょうか。

中山 反対は常にありますよ。何をやっているんだ!と言われるかもしれない。言われるだろうなあ。えくてびあんに載るとかっていうことを良しとしない人もいますからね。

——ライオンズさんはクリーン多摩川とか取材させていだいたりしましたよ。

大野 ライオンズさんはwe serve、団体でやるからです。駅前の募金活動も皆さんでされるじゃないですか。ロータリーは基本が個人の陰徳なので。でも、もう少し理解されたいですよ。

必要以上に美化しませんが、やっていることは認識してもらいたい気持ちはあります。

中山 長井さんが会長だった時にコロナの感染が始まりました。例会が3か月開催できなくなり、会費が余る事となりました。会員に一部返金をし、一部を医療従事者のためにお使いくださいと立川市新型コロナウイルスの窓口に寄付をしたんですよ、言わないけど（笑）。

——言わないところが美徳ではありますよね。

大野 そうなんです。今でもそうなんです。

中山 そう思っている人はたくさんいますよ。だから叱られるかもしれないけれど、えくてびあんには本当のことを書いていただきたいです。

大野 僕らはそういう世代です。

——パレスホテルの南側に被災地の桜を植樹されたとき、初めてこうした活動を知りました。

中山 来年の3月10日にはまた取材に来てください。その時、植樹をして頂いた福島郡山RCの方々もお呼びしておりますので…。ロータリーって、良い事ばかりやっているんですよ（笑）。



大野芳裕氏

国際ロータリー第2750地区 東京立川こぶしロータリークラブ2022～2023年度会長。株式会社大野開発 代表取締役、株式会社ユニテッドプロモーションズ 代表取締役。1973年1月15日生まれ。立川こぶしロータリークラブ会長としては最年少。ロータリークラブがハブでありすべてのきっかけだと言う。知り合った仲間と信頼関係を築く中、立川への想いはさらに募る。